

あわゆず ふれず

第32号 2015年10月23日発行

伝えよう日本語を
広げよう徳島から



J T M と く し ま
日本語ネットワーク

「教える」「学ぶ」を越えて

外国の方に日本語を教えるということに興味を持ち、2000年にJTMが主催した「『こんにちはとくしま』の教え方セミナー」に初めて参加してから15年、まだ小さかった子どもを抱えて、JTMの研修会やNAFL日本語教師養成通信講座等で日本語教授法を学びながらボランティア活動を重ね、日本語教育能力検定試験を経て、徐々に日本語教師として教える機会を持つようになりました。

日本語教育という活動に携っていると、言語を教える、学ぶということを超えて、学習者からの強い信頼感を感じたり、思いがけない感動を覚えたりすることがあります。

あるメンバーからはこんな話を聞きました。いつも支援している中学生の子どもが、教室が終わってから、近くでやっているお祭りに一緒に行きたいと言ったそうです。そしてそのメンバーは教材のたくさん入った重い荷物を抱えながら、約1時間一緒にお祭り会場を歩いたそうですが、その間ずっと、その子は勉強のことや志望校のことなど、自分が日ごろ考えていることを話していたそうです。お祭りは口実で、きっと親でもなく、友達でもなく、学校の先生でもないそのメンバーに話を聞いてもらいたかったのです。いつも自分をきちんと見てくれていることに100%の信頼をし、親しみを感じ、一緒にお祭りに行きたいと言ったのでしょう。その後その子は無事志望校に合格し、今は楽しい高校生活を過ごしているということです。

私自身はこんなことがありました。ある教室でのこと、在日年数も長く、仕事で忙しい時があるにもかかわらず、時間の都合をつけて通ってきている学習者が、ある日私に「私、この教室大好きです。」と言いました。私は「嬉しいですね。ありがとうございます。でも、どうしてですか。」と聞きました。すると学習者は授業の内容のほかいくつかの理由を示し、その中で、こんなことを言ってくれました。「先生は、いろんなことを知っていて、マナーもいいです。そしていつも上へ上へ行こうとしています。先生を見ていたら、私も先生みたいな人になりたいから、ずっと日本語の勉強を続けようと思います。」と言うのです。

私と教室で接することを通して、彼女自身ももっと上をもっと先を目指したいと思っていたのです。少々過分に感じつつも、今まで日本語を教えることに携わってきて、これほど嬉しい思いをしたことはありません。彼女たちに豊かで自信が持てる生活を送ってほしい、そしてそこにつながる授業を提供したいと思いながら取り組んできたこと、そして私自身も、日本語教育に携わる中で、どんな人生を送ってきたか、これからどんな人生を送っていききたいか、ちょっとした雑談の中で話してきたことを、彼女はしっかりと見て、聞いて、受け止め、彼女自身の人生に生かそうとしていたのです。

ただひたすら学習者にとって何が一番いいのか、そのためには自分が何をすればいいのかということを考えながら、活動に取り組む、そんなひたむきな姿勢を、見る人はしっかり見てくれているのです。その姿が学習者にとっても、自らが望む人生をひたむきに生きていくきっかけになるならば、そしてお互いがお互いを高めあいながら、豊かな生活を歩んでいけるならば、こんなに素敵なことはありません。

(辻 暁子)

第1回

JTMとくしま日本語ネットワーク定例会

外国にルーツを持つ子ども達のための日本語指導者養成セミナー 「年少者への効果的な指導法」に参加して

日時：平成27年7月18日(土) 13:00~16:00

場所：公益財団法人徳島国際交流協会大会議室

講師：大蔵 守久 先生

概要：1. 「いつ・何を教えるか」を大まかにとらえと
2. 日本語指導「どのように教えるか」
～学習意欲を高める工夫
3. 文字の指導
4. 教科学習の支援方法

参加者：38名



セミナー予定日間近に、台風11号が四国に上陸し、開講の可否にやきもきしましたが、私達の熱い思いが届き、無事開講の運びとなりました。

セミナーでは、先生が長年積み上げて来られた日本語指導のノウハウを、流れるように披露してくださいました。文字通り息つく暇もない時を過ごしました。その指導方法は具体的、かつ実践的で、明日からの支援にすぐにでも使いたいと思わせる宝の山でした。

セミナーの中で私が最も興味深かったのは「どのように教えるか～学習意欲を高める工夫」の項で、次のようなことが示されていました。

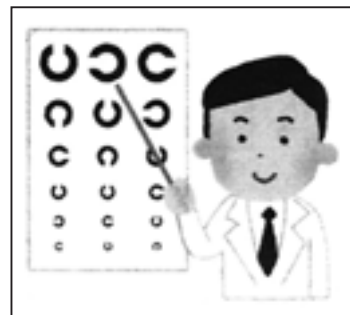
- ① まず、見てわからせる ⇒ そのために必要な視覚情報を用意し
- ② 次に、繰り返すことで覚えさせる ⇒ 変化のある繰り返しの中で
- ③ 更に、考えて答えることで記憶を深める ⇒ 考えさせる仕掛けを作る。

この指導法で、容易に理解させることができるよう、アイデアいっぱいの教材を紹介してくださいました。材料のほとんどが身近にあるものですが、ほんの少し手を加えるだけで、立派な教材に変身です。イラストで簡単に教えられる言葉がある一方、形容詞・副詞の中にはイラストだけでは伝えにくい言葉も多く、ひと工夫した教材を合わせ持つことにより、学習がよりたやすく、楽しく進められると思いました。次々と取り出されるいろいろなものを、あかも使える、こうも使えると考えながら聞いていました。学習者に「楽しかった」と思ってもらえる支援を目指している私には、その種類の多さにとっても嬉しくなりました。

中でも視力検査表はすぐにでも使いたいと思ったひとつです。うえ、した、みぎ、ひだり、を繰り返して覚えさせた後、視力検査を利用して練習する。左右上下の単純な繰り返しに、だんだん小さくなるという変化を加える手法で無味乾燥のリピートを生きた活動にする指導法でした。この手法を「変化のある繰り返し」というのだそうです。

更に私がセミナーの中で印象深かったことは、先生が、高校入試のための、作文指導の必要性や方法を詳しく提示してくださいました。高卒の資格を取ることの重要性や、大事なポイントもあらためてよくわかりました。

このセミナーで学んだことを、学習者と関わる短い時間の中で、充分生かすことができれば、学習者にとっ



て効率的でより良い成果が得られ、私にとっても、授業の準備がシンプルになり、お互いにいいことづくめだと思いました。

以前、高松で先生のセミナーに参加したJTM会員の「是非、徳島でもこのセミナーを」という思いが実現した、待ちに待ったこの日、まさに目から鱗の素晴らしいセミナーでした。未解決のままにしていた穴埋めパズルの答えが次々と埋めることができたような深い満足感を覚えました。「年少者」に焦点を合わせたこのセミナーは、私にとって大変有意義なものでした。

このセミナーを機に、見知らぬ国で不安を抱きながら毎日学校に通う子ども達の未来を開くため、気持ちを引き締めて支援に取り組んでいきたいと思えます。(木南 繁子)



〈アンケートより〉

当日参加者38名中、30名から寄せられた声の一部を紹介します。

* セミナーはどうでしたか。

- ・とても良かった。(回答者全員)
- ・子どもたちの側に立った学習方法で、本当に自分自身、やってみたいと思えます。
- ・分かりやすく役立つことが盛りだくさんでした。
- ・子どもが興味を持ちやすい活動から、学習につなげていくアイデアが豊富で楽しかった。
- ・指導方法の細かなポイントまで学べた。

* 一番印象に残ったことは何ですか。

- ・子ども達が楽しく学べるように工夫することが大切だということ。
- ・学習者の伸長期での取り組み。
- ・静→動→静の授業をするということ。

* 今後どのようなセミナーを希望しますか。

- ・教科学習の支援方法
- ・第二回、三回と大蔵先生のセミナー (回答者多数)

講師プロフィール

大蔵 守久(おおくら もりひさ)先生

一般財団法人 波多野ファミリスクール 執行理事・学監

小学校の教員を経て1982年より現財団の国際学級に勤務。同学級では69か国49言語1200人の小中高校生の日本語指導・教科指導を担当。現在は同財団の執行理事として財団の経営に当たる傍ら、文科省・教育委員会・国際交流協会などの依頼を受けて、全国で日本語指導法の研修をおこなっている。著書の『日本語学級』は、日本で初めて「年少者の日本語指導を生活に必須の語彙指導から始める」ことを提唱したテキストとして、また、子どもが大喜びする楽しいテキストとして広く知られている。



サマースクール 「夏休み子ども日本語教室」

日時 2015年7月21日～8月3日までの8日間
場所 公益財団法人徳島国際交流協会大会議室

今年も徳島県の委託を受け、サマースクールが開かれ、7月21日から計8日間、27名の子ども達が参加しました。スタッフはJTMメンバー以外に、城東高校、徳島大学、鳴門教育大学からも多くの学生がボランティアで参加してくれました。

開始時間の10時半になると、待ち構えていた子ども達が一斉に教室に入ってきて、手際よく自分のネームカードを取り、出席のスタンプを押し、それぞれの担当のスタッフと日本語の学習や夏休みの宿題等、約1時間の個別学習をします。その後、毎日、2～3名ずつ1分間のスピーチをします。内容は、自分の好きなものや好きな教科、将来の夢、また自分で物語を作り、それをクイズにして皆に問いかけながら話してくれる子もいました。日本に来たばかりの子やまだ恥ずかしくてなかなか大きな声が出せない子ががんばってスピーチをしました。



最後の全体学習では、「入道雲」や「かき氷」など夏に関する言葉を絵と組み合わせて勉強したり、偏から漢字を完成させたり、しりとりや、絵本の読み聞かせ『台風がきたぞ』、また簡単な言葉を使ったゲームなどをしたりしました。日本語がよくわかる子も、まだあまりわからない子も一緒に楽しめるよう工夫された活動でした。虫を触って感じてみる活動では、本物の虫の登場にみんな大騒ぎでした。ここで初めて会う子ども達も、ゲームを通していつのまにか仲良くなっていました。



最終日には修了書と、8日間の写真と子ども達の絵日記をまとめたアルバムを渡して、記念撮影。保護者の方達も、最後は教室に入ってきて写真を撮り、笑顔で子ども達を見守っていました。初めてサマースクールに参加した子どもや保護者の方も、ここに来れば、

信頼できる大人と仲間がいて、楽しく勉強したり遊んだりできるひとつの居場所があることが分かり、心強く思ったのではないのでしょうか。

今後もそれぞれの活動を通して、子ども達が生活の中で、また将来に向かって、自己実現できるよう、よりよい支援を考えていきたいと思います。



(古山 陽子)

徳島県定住外国人の就労・社会参加支援事業

主催 公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会

場所 ヒューマンわーくぴあ徳島 4階

就職のための日本語講座

今年度の就職のための日本語講座は5月19日から7月13日まで、毎日3時間、計40回120時間の講座として開講されました。受講生は中国の方4名、韓国の方1名でした。受講生はすでに仕事をしている人、これから就職をしたいと考えている人たちで、職場で適切な日本語が使えること、仕事上のマナーを習得することを目指して受講しました。講師は3名で、授業内容や受講生の現状を把握するための連携を密にして取り組みました。



授業で使う『新日本語の中級』は「尋ねる・確かめる」「電話で連絡する」のようにテーマに分かれているので、学習目標がつかみやすくなっています。授業では文法だけにとらわれない実践的な会話ができるようになることを目指しました。学習者は場面設定を変えてロールプレイをすることで、その場に応じた適切な表現を身につけることができていました。また『しごとの日本語』では「話し方」「電話対応」などの項目があり、あいつちの仕方や、電話の取り次ぎ方など、仕事をするうえで必要となる具体的なマナーを学習しました。学習者は母国との違いや日本独自のマナーに驚いたり感心したりしながら、仕事に就いた時の自分をイメージしていたように思います。

受講生は同じ目的を持ち一緒に頑張ろうという気持ちが強く、助けたり助けられたりすることで信頼関係がつくれ、雰囲気の良い教室になっていました。ある受講生はとても熱心で、教室で日本語を学ぶことが初めてだったこともあり、学ぶことを心の底から楽しんでいる様子でした。遅くまで仕事をしていたのに、1日も休むことなく教室にやってきました。ただ、仕事の都合でどうしても1時間早く帰らなければならなかったのに、講師としては、学習に遅れが出るのではないかと、教室に来るのが嫌になるのではないかと少し心配しました。でも、そんな彼女を隣に座る同郷の女性がいつも親身になって助けてあげていました。どんなに不安が和らいだことだろうかと思います。時々母国の言葉を交えながら話し合っている姿を見ると、ここでの仲間との出会いの素晴らしさを感じないではいられませんでした。助け合ってみんなで頑張ろうとする教室の雰囲気は受講生の学ぶ意欲を高めていました。それは講師にとっても指導がしやすく、効果的で楽しい授業を展開することができました。

講座を主催している（公社）徳島県労働者福祉協議会のスタッフの方々は、陰になり日向になり受講生のことを中心に考え、相談に乗り、日々の「あゆみ」（受講生との交換日記）に返事を書き、受講生を励まし応援し続けてくれました。そのおかげで受講生は常に前向きに学習に向かうことができ、また我々講師も自信を持って取り組むことができました。



7月13日の修了式では、（公社）徳島県労働者福祉協議会の川越会長からあたたかい修了のお言葉をいただきました。受講生は一人ひとり前に出て、「授業はとてもわかりやすく楽しく学べました。これからはがんばっていきましょうと思います。」など、今の気持ちを笑顔で話してくれました。

ここで培ったことが、今後の生活の次への大きなステップになるよう心から願って、これからも応援し続けたいと思います。
(杜 美智)

にほんご寺子屋の取組 職場体験学習

とき 2015年4月3日
ところ 株式会社フジタ建設コンサルタント
(板野郡北島町鯛浜)

主催：JTMとくしま 共催：徳島中央ロータリークラブ 後援：徳島県教育委員会

にほんご寺子屋の取組として、「第2回職場体験学習」が実施されました。この職場体験学習は、外国にルーツを持つ子ども達が、地域で働く人とふれあい、業務の体験をすることによって、仕事の楽しさや厳しさを知るとともに、人の役に立つ喜びを感じることに、将来の夢や目標に向かって前進する意欲を高め、将来、地域社会に貢献できる人材の育成につなげることを目的として行われました。

訪問した会社は、昨年に引き続き株式会社フジタ建設コンサルタント（敬称略）です。フジタ建設は、橋や道路の土木調査や建設設計を主な業務とする会社です。

JTMでは事前に参加者にアンケート調査を行い、体験学習に向けて意識づけをしました。また当日は、挨拶の練習、社員インタビューの質問を考えるなどの事前学習をしてから、バスでフジタ建設に向かいました。

フジタ建設では、藤田主任さん（現取締役）始め数名の社員の方が出迎えてくださいました。まず、タイムカードを押し、社員証を作ってもらって首にかけ、一人ひとりの名刺も作っていただきました。子ども達は、緊張と驚きと嬉しさが入りまじったような顔をしていました。

フジタ建設では、職場体験学習の主旨をよくご理解くださり、体験学習にふさわしい内容のプログラムを準備してくださいました。そして子ども達にもよくわかるよう、実物や映像を見せながら、易しい言葉で話してくださいました。

社員インタビューでは「一番好きな橋はどの橋ですか。」「会社でパーティーをすることはありますか。」など、思い思いの質問をしていました。社員の皆さんは、笑顔で優しく答えてくださっていました。

そして何より子ども達が生き生きと取り組んだのは、パソコン操作でした。一人ひとりに指導者がついてくださり、教えてもらいながら図面を作成しました。子ども達の嬉しそうなこと、そして覚えの早いこと！完成した図面は、プリントしていただき、持ち帰りました。

最後に感想文を書き、それには楽しかったパソコンのこと、インタビューでは緊張したこと、そして感謝の言葉がつづられていました。その感想を述べた時、藤田主任さんは終始うなずきながら、聞いてくださっていました。

そして、後日のメールで、このようにおっしゃっていました。「この経験を通して、子ども達に笑顔が生まれ、その笑顔を通して社員のみならずにも笑顔が生まれる。……子ども達に夢を与えるのと同時に当社の社員にも、自分たちの仕事の必要性を認識できるいい機会ととらえている。そして社員同士の団結力を養うことにつながる。」とおっしゃっていました。

このように、子ども達にとっては貴重な体験学習の場を与えていただき、またフジタ建設にとっても良い影響があるならば、理想的な体験学習の形と言えるのではないのでしょうか。今後も双方にとって有意義な職場体験学習が続いていくことを願っています。

体験学習を終えての帰り道は、あいにくの雨になってしまいましたが、子ども達は数々のおみやげと、みやげ話をかかえて帰って行きました。

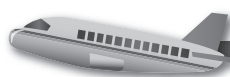
フジタ建設様には、打ち合わせから当日まで、お忙しい中、時間を割いて、職場体験学習をさせてくださったことを心より感謝しています。（中野佳代子）

※本事業は、国際ロータリー第2670地区ロータリー財団委員会地区補助金の支援を受けて実施しました。



子ども達の感想文

- ・公園や橋などをつくるのがよくわかりました。コンピューターを使った時はすごく楽しかったです。図面はかっこよかったです。インタビューをするとき、きんちょうしたけど、みんながやさしくこたえてくれるので、うれしかったです。またこのような体験がしたいです。私はジャーナリストになりたいから、いろんなことを知りたいです。今日は本当にありがとうございました(´▽`)!!!
- ・私はこの職場体験学習に参加するのは、2回目だけど、すごく緊張しました。無人ヘリコプターを触るとき、正直に言うと緊張しました。この職場体験に参加して、本当によかったと思います。次も楽しみです。
- ・名刺交換をして、日本語が上手になったかな？やさしい人がいっぱいいい交流ができました。インタビューをして、この会社で働く人はがんばっていると思いました。パソコンを使って絵を描きました。パソコンの知識が増えました。



お国探訪



中国

張 玉玲(日本語サロン参加)



私は中国の瀋陽から来ました。瀋陽は高いビルがたくさんあり、人も大変多いです。夏は32度くらいで暑く、冬はマイナス30度くらいになり、まつ毛も凍るくらいで、雪もたくさん降り、大変寒いです。でも部屋の中はお湯が入ったパイプが張り巡らされて、床の下も床暖房になっているので、暖かいです。

家から近いところに、北陵公園があります。昔、王様が住んでいた古い建物があり、観光客も多く、中国の人達もたくさん遊びにきている大変広い公園です。

瀋陽はスキーもスケートも楽しめます。冬は寒くても、屋根のある市場で野菜を売っています。野菜は凍るので布団に包んで売っています。冬は、自転車は滑るので、仕事に行くのはバスに乗ります。バスは安いです。

中国と日本の違うところは、日本(徳島)は空気がいいです。瀋陽は大きな街でビルばかりですが、徳島は山や川があってきれいです。食べ物、中国料理は何でもおいしいですが、特に餃子がおすすです。餃子は、今はいつでも食べられますが、昔は大晦日にものすごくたくさん作って、除夜から食べ始めます。食べる前に、花火を家族で楽しみます。花火は9時ごろから、夜中の3時くらいまで、あちこち街中で楽しんでいます。

日本に来て4年半くらいになりますが、中国と違うところは、お正月は、日本は静かですが、中国は大変にぎやかです。中国のお正月(春節)は、学校も休みが1か月くらいあります。

中国では、結婚するのが大変です。男の子だったら、家を買わなければなりません。そうしないと結婚してもらえないのです。

徳島に住んで、生活習慣などの違いがたくさんありますが、瀋陽もいいところです。一度行ってみてください。



フランス

テランド ティフェン(日本語サロン参加)



私の故郷は、パリの南西200kmほどのところにあるトゥールという町です。中世の雰囲気や今に伝える建築物がたくさん残っています。フランスの王様たちは美しいこの地を愛し「フランスの庭」と名付けました。近くをフランスで最大の川、ロアル川が流れています。川面に映る古城はとてもロマンチックです。

ところで皆さん、ユーロヴェロをご存知ですか。ユーロヴェロとは、ヨーロッパ自転車連盟の推奨する全欧自転車道路網のことです。ヨーロッパ全土を12の長距離ルートで結ぶプロジェクトで、全長6万kmの計画のうち、2万kmが既に施行されています。年間を通して通行可能で、30kmごとにサービス設備、50kmごとに宿泊設備、150kmごとに公共交通へのアクセスがあります。ロアル川に沿った800kmにも、たくさんの家族づれや恋人たちが訪れて、サイクリングを楽しんでいます。皆さんどうぞ私の故郷へいらしてくださいね。

気候について言えば、春夏秋冬、フランスにも日本と同じように四季がありますが、梅雨と台風はありません。私は日本に来て初めて梅雨と台風を経験しました。台風は怖いですが、私には何も被害はありませんでしたが、台風で洪水やけが崩れがあって、関係省庁の大変さを思わずにはいられませんでした。

私は今、日本語と日本の文化を、もっとよく知りたいと思っています。私は都市計画と国際関係を勉強しました。これから国際関係の仕事に就き、日本とフランスの連携を深めることに努力したいと考えています。

INFORMATION

◆会員数(2015年9月30日現在) 正会員数37名 協会員数4名
 ◆入会随時受付中! 正会員...会の活動に参加し、ともに運営を行います。
 協会員・団体...会の活動を支援する個人または団体

活動紹介

ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会
*毎月第2土曜日13:30~15:00
〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇日本語指導部研修会
*毎月第3金曜日または土曜日
- ◇定例会 ◇特別研修会



日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン
*毎週月曜日10:30~12:00
とくしま国際戦略センター(トピア)



にほんご寺子屋

- *毎週日曜日13:30~15:00
とくしま国際戦略センター(トピア)

就職のための日本語講座

- (徳島) 平成27年5月18日~7月13日
- (県南) 平成27年9月7日~平成28年2月25日
*毎週月・木曜日9:30~12:30
- (県西) 平成27年9月15日~平成28年2月26日
*毎週火・金曜日9:30~12:30

保護者のための日本語講座

- 平成27年6月17日~12月9日
*毎週水曜日13:30~15:00

介護の日本語講座

- 平成27年9月2日~11月2日

漢字学習講座

- 平成27年12月7日~平成28年2月25日
*毎週月・木曜日13:30~15:00

主催 公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会

日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン
入門から上級まで、会話や日本語試験対策などニーズにあった学習プランで教えます。
- ◇詳しくは事務局またはレッスン専用メール
jtmtokeu-lesson@mbk.nifty.com まで。

JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima

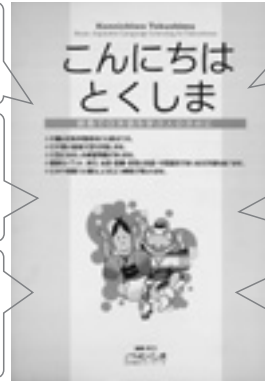
こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために

本書は初級学習者向けの教材です。

文型に対応した練習問題があります。

日本や徳島の暮らしに役立つ情報が得られます。



日本語の基礎文型を学習することができます。

イラストがたくさんあり、わかりやすいです。

会話と語彙、表現の英語・中国語訳があり、自習学習を助けます。

子どもと暮らすための こんにちは とくしま

徳島で子どもを育てる人のための日本語教材



- ・全12課
- ・季節や身近な場面に合わせてどの課からでも学習できます。
- ・子育てを通して、まわりの人とうまくコミュニケーションできるようにするための表現が学習できます。
- ・学校の通知文の読み方や返事の書き方の練習ができます。
- ・生活情報がクイズ形式で学習できます。
- ・学校や生活に役立つ情報が得られます。

●ご購入、お問い合わせ JTMとくしま事務局

ご支援をいただきました

□国際ロータリー第2670地区ロータリー財団委員会および徳島中央ロータリークラブより地区補助金をいただきました。

あ と が き

今年は夏の終わりを待たずして、秋がやってきました。庭の木々も葉を落とし始めています。

JTMでは今年のテーマとして「地域で暮らす外国の方々と共に学び、お互いの思いを知り、共に生きていると実感できる地域づくりにつながる日本語支援の充実」を掲げ、活動しています。

そんな活動の一部を紹介いたします。

ぜひご覧ください。(玉置 房)

発行/JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者/兼松 文子

編集責任者/山満十糸子

編集スタッフ/加村 匡子・谷口 真弓・玉置 房・辻 暁子

村松 幸子・杜 美智・安山 政子

印刷/徳島県教育印刷株

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 088-625-5113

E-mail jtmtokeu@nifty.com

URL http://homepage2.nifty.com/jtmtokeu/